

## 平成21年度第4回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成21年度第4回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成22年3月18日(木) 午後1時30分～午後4時30分
3. 開催場所 市立図書館 2階会議室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名(相山委員委員欠席)  
橘田昭雄委員長、三浦茂一副委員長、實形裕介副委員長、金子馨委員、高崎繁雄委員、  
藤平量朗委員、野中徹委員、須田昭平委員、永野昭委員  
教育委員会事務局6名  
初谷教育長、栗原教育部長、能城文化課長、半澤主幹、戸倉副主幹、石川主査
5. 議題及び公開又は非公開の別
  - 議題1 『木更津市史』の編集方針(案)について(公開)  
・第3回編集委員会及び役員会での修正内容の確認
  - 議題2 (仮称) 図説『木更津のあゆみ』の内容について(公開)
    - ① 各時代、分野の構成(案)について  
(執筆者について)
    - ② 体裁及び執筆要項について
  - 議題3 次年度計画について  
編集委員会及び執筆、刊行計画について
  - その他 市史編集ボランティアについて(公開)(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(半澤主幹) 平成21年度第4回木更津市史編集委員会を開会いたします。  
本日の市史編集委員会は、相山委員より都合により欠席の連絡がありましたので報告します。  
なお、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席により本会議は成立しております。また、会議は公開でございますので、会議録作成のため録音をさせていただきますのでご了承下さい。

事務局(半澤主幹) それでは、はじめに初谷教育長よりご挨拶申し上げます。

教育長 (初谷教育長挨拶)

事務局(半澤主幹) 次に橘田委員長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

橘田委員長 (橘田委員長挨拶)

事務局(半澤主幹) ありがとうございます。それでは、議長は委員長にお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願いいたします。

橘田委員長 議長を務めさせていただきます、宜しくお願いいたします。  
それでは、議事に入らせていただきます。  
議題1 『木更津市史』の編集方針(案)について事務局より説明願います。

事務局(能城課長) 議題1の説明をする前に、私の方から前回、第3回市史編集委員会後から役員会を開催し、また市史編集事業ボランティアの説明会を開催しましたので、本日までの経過説明をさせていただきます。

(能城課長 説明)

橘田委員長 はい。能城課長の説明により、今日までに事務局の動きや各班の活動の様子が分かりました。それでは、議題1の編集方針について、具体的な説明をお願いします。

事務局(石川主査) 第3回編集委員会及びその後、開催しました役員会にて、ご指摘のあった文章表現の部分2箇所について修正をいたしました。

(修正箇所の説明)

橘田委員長 只今、事務局より編集方針(案)について説明がございました。委員の皆さん、ご質問、ご意見等ございませんか。

永野委員 修正した文章を確認しますが、「政治、経済、行政史に偏ることなく」の部分を「従来の政治史偏重の立場によらず」と修正したいとのことですが、この「従来」とはの言葉は、不要なのではないでしょうか。

須田委員 私も、「従来」という言葉が気になりました。「従来」というと現在ある『木更津市史』が偏っているという解釈になってしまうのではないのでしょうか。

永野委員 この「従来」とは、一般論を指しているのか、それとも、今ある『木更津市史』のことを指しているのか、分かり辛いです。

- 事務局（能城課長） はい。ここでの「従来」とは、『木更津市史』を指しているのではなく、社会一般的なことを指しております。
- 橘田委員長 皆さん、ほかにご意見等ありませんか。
- 三浦委員 私は、「(6) 木更津の地域的、歴史的、文化的な特性に配慮しながら編集します。」と(5)を併せて一つの文章にしても良いと思います。
- 橘田委員長 三浦委員から「木更津の地域的、経済的、歴史的、文化的な特性に配慮し、地域に生きる人々の視点を踏まえながら編集します。」としては、いかがというご意見がでました。みなさま、この表現について何かご意見ございますか。
- 野中委員 意義ありません。
- 永野委員 そうですね。私も(5)と(6)を一つの文章にまとめた方が良いと思います。
- 金子委員 私も、三浦委員の提案がよろしいかと思えます。
- 橘田委員長 只今、賛成のご意見がでました。皆さん、他に何かご質問、ご意見等ございませんか。
- 橘田委員長 ないようですので、三浦委員の提案を承認いただけたものとします。事務局、修正の方よろしいでしょうか。
- 事務局（石川主査） はい。(5)と(6)を合わせ、「木更津の地域的、経済的、歴史的、文化的な特性に配慮し、地域に生きる人々の視点を踏まえながら編集します。」へ修正いたします。
- 橘田委員長 次に議題2の(仮称)図説『木更津のあゆみ』の内容について審議に入ります。前回の編集委員会で各時代、分野の項目が揃いました。その後、各班において項目のグルーピングと執筆担当についての協議をしていただきましたので、各班順次説明をお願いします。それでは、自然班から説明をお願いします。
- 藤平委員 (自然班のグルーピング及び執筆担当者の説明)
- 橘田委員長 只今、自然班の説明が藤平委員からございました。委員の皆さん、ご質問、ご意見等はございませんか。

事務局（栗原部長） 藤平委員に1点、確認がございます。キイロホソゴミムシについては、図説『木更津のあゆみ』の中では触れられますか。

藤平委員 はい。もちろん、キイロホソゴミムシは、小櫃川河口に生息する最重要保護生物で、環境省の絶滅危惧種の生き物ですので、「盤洲干潟の地形と生きもの」のところできちんと紹介いたします。また、同じく絶滅危惧種であるエドハゼも紹介します。

事務局（栗原部長） 分かりました。ありがとうございました。

橘田委員 今や盤洲干潟は、全国的に注目されておりますので、干潟の形成段階から干潟の貴重な生き物をもろさずきちんと紹介するとのこと。それでは、ほかにご質問ございますか。

實形委員 構成上のことですが、自然班の項目立てなのですが、1項目2ページから4ページといった偶数ページの構成になっていません。現在のものと、1項目に1.5ページや0.5ページのものがあります。各班も1項目の中で、いくつかの内容が盛り込まれると思いますが、この項目は本の「目次」となるものですから、項目を細かく分けずに、むしろこのグルーピングした大きなテーマが項目に近いイメージです。ですから、今回グルーピングしたものを更に大きくまとめることはできないでしょうか。

藤平委員 はい。これは、内容や執筆分担が分かるようにしたものですので、今回グルーピングしたものを項目に変更することは可能です。1項目、偶数ページで構成を整え、再度、グルーピングを検討します。

橘田委員長 それでは、ほかにご質問ないようであれば、次の原始古代班の説明をお願いします。

事務局（戸倉副主幹） （原始古代班のグルーピング及び執筆担当者の説明）

橘田委員長 只今、事務局より原始古代班の説明がありました。どうぞ、ご質問、ご意見がありましたら、お願いします。

永野委員 全体的にみて、原始古代班の項目は漢字が多く、他の班と比較すると項目に違和感を感じます。また、文字の使い方ですが、できるだけ漢字を使用してルビをふるのか、漢字は使用せずにひらがな、若しくはカタカナを使用する

のか、ほかの班との使い方と統一がとれていません。

事務局（戸倉副主幹） この文字の表記の仕方につきましては、新年度第1回市史編集委員会までにきちんとした執筆要項（案）をご提案する予定です。原始古代班の項目だけではなく、全体的に文字の表記を統一してまいります。

實形委員 私は、「ムラ」の表記の仕方云々よりも項目の付け方が気になりました。この項目とは、最終的には目次なり、読む人のメニューとなるものです。原始の項目の「縄文ムラの繁栄」を見て、一般読者が開いて読んでみたいと思わないです。この本のコンセプトは、どの時代、どの分野から読んでも良いということです。そのため、どこから読んでもいいように組んでいくのですが、このような構成の本で、一般読者の目を引く項目にすることが大切なのです。ですから、ここで項目に対しての「ムラ」等の表記について研究者のこだわりは必要としていません。もちろん、中身ではこだわりは必要ですが、一般読者がこれは、面白そうだなと、思える項目にすることが大事なのです。それから、原始の代表とする史実と言えば、木更津市の博物館の名称にも「金のすず」とあるように金鈴塚古墳ですが、その金鈴塚古墳が項目に出ていません。また、水田跡で有名な菅生遺跡も表（目次）になっていないのも気になります。古代の方は、きちんと大寺廃寺と表（目次）に出ております。当然、金鈴塚古墳のことや菅生遺跡のことは、中身で紹介するのですが、一番最初のもっとも目立つ目次に出ていないと興味関心を引くことはできません。ですから、読んでもらうためにも表に出すように項目の付け方を再検討する必要があります。また、ページの割り振りも原始は、どの項目も2ページずつとなっていますが、もっとメリハリをつけて金鈴塚古墳や菅生遺跡などは、4ページ、6ページにしても良いと思います。

橘田委員長 はい。只今、實形委員より大変重要なご指摘がありました。やはり、木更津を代表とする時代の史実を表に出し、その時代の中心となる項目については、ページ数を増やすなどすることは大事だと思います。委員の皆さん、何かご意見等ございますか。

永野委員 私も實形委員のご指摘のとおりだと思います。もっと、金鈴塚古墳など全国的にも誇れる郷土の歴史を表（項目）に出した方が良いですね。内容が項目に出るよう、項目を見て内容がすぐわかるような項目にすれば良いと思います。古代のような項目は、わかりやすく良いです。古代の方に合わせるようにして項目の検討をした方が良いです。

橘田委員長 委員の皆さん、ほかにご意見ありませんか。ないようですので、それでは、原始につきましては、再度、魅力的な項目を検討願います。

事務局（戸倉副主幹） はい。分かりました。原始班に持ち帰りまして、項目の件、ページの割り振りの件、再度検討いたします。

橘田委員長 それでは、次に中世班の説明をお願いします。

事務局（戸倉副主幹） 中世班につきましては、3月中は佐藤先生をはじめ調査研究員の皆さんが大変お忙しく、検討の場を設けることができませんでした。そのため、中世の項目については、グルーピングを行っておりません。4月早々にグルーピングの検討を行い、新年度第1回市史編集委員会で報告いたします。

橘田委員長 はい。中世班につきましては、会議の時間を設けられなかったということで、グルーピング、執筆担当のところは未定となっております。前回の市史編集委員会からの依頼事項でもありましたページ数を4ページ減らし、34ページに変更することと、項目のグルーピング、執筆担当者の決定を4月末日までをお願いします。

事務局（戸倉副主幹） はい。4月早々に会議を開きたいと思います。

橘田委員長 それでは、次に近世班の説明をお願いします。

實形委員 （近世班のグルーピング及び執筆担当者の説明）

橘田委員長 只今、實形委員より近世班の説明がありました。何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

實形委員 それから補足ですが、近世班の方は、調査研究員が今年に入るまで決定していなかったため、これまで私一人で項目等決めておりましたが、ようやく2月にはじめて調査研究員が集まり会議を開くことができましたので、これから、資料調査を進める中で、また実際に原稿を執筆する段階になりましたら、班の中で再検討し、項目、執筆分担など若干の変更等が生じると思います。また、中世と近現代との過渡期についても、別途それぞれの時代と調整する会議を設けたいと思っております。

橘田委員長 今後、中世や近現代班と調整する打ち合わせの機会を設けたいとのこと。

ご質問がないようですので、次の近現代班の説明をお願いします。

三浦委員

(近現代班のグルーピング及び執筆担当者の説明)

橘田委員長

只今、三浦委員より近現代班の説明がありました。39項目を5つのグループに分け、3グループについてはグループ名が未定で検討中とのこと。何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

藤平委員

木更津の近現代史として触れない方が良いのかもしれませんが、私は「戦争」が一番に思い付きます。木更津には、木更津海軍航空隊ができた、特攻隊も木更津からサイパンへ飛び立った史実もありますが、こう言った「負の歴史」は掲載しないほうがよろしいのでしょうか。

三浦委員

項目に「木更津海軍航空隊の開設」をあげておりますので、執筆者は栗原さんですが、その点については触れると思います。

橘田委員長

戦争の事実もきちんと、現代の子どもたちにもきちんと伝えるということです。ほかにご質問ございませんか。

永野委員

項目に「海苔養殖技術の発展」とあります。海苔は、木更津の特産物ですが、海苔養殖技術を特質すべきなのではないでしょうか。これは、富津市、君津市でも言えることだと思います。

三浦委員

これは、当初「海苔養殖始まる」という項目があり、項目精査やページ数との関係で「海苔養殖技術の発展」として養殖の起源から現在までの紹介をする予定です。

橘田委員長

今後、各分野、時代において項目と具体的な内容についての確認が必要になってきますね。ほかにご質問、ご意見ありませんか。ないようであれば、次の民俗班の説明をお願いします。

事務局（戸倉副主幹）

(民俗班のグルーピング及び執筆担当者の説明)

橘田委員長

事務局より民俗班の説明がありました。何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

永野委員

これは、事務局へ確認ですが、木更津市内の位置的な、地理的なものがわか

- るようにするには、地図が必要となりますが、どこかのページに航空写真以外にも市内全域の地図は入るのでしょうか。
- 事務局（能城課長） 導入の部分で、木更津の紹介をしますが、そちらで地図を入れる予定です。ただページ数に限りがありますので、どのくらいスペースを割けるかは、これから編集作業の中で検討が必要となってきます。
- 永野委員 はい。わかりました。それから、もう1点ですが、どの地域も欠けることなく市史の方へ掲載するよう、事務局の方で十分、気をつけていただきたいです。ある地区のことが全く市史に載っていないとなると、必ず問題となります。刊行されてから、「うちの地域には、こんな史実があったのに・・・なぜ、市史に記述がないのか」と必ず申し出があります。ですから、どの地域も漏れることなく記述されているか、原稿執筆に入る前にチェックし各分野、時代のどこかには、かならず記述をするよう配慮していただく必要があります。そして、この漏れがないかどうか、チェックするには市史編集事業ボランティアの方に協力してもらえば容易ですので、現在、ボランティア登録者のない地域については、事務局の方でボランティア募集を強化しなければならないです。
- 事務局（石川） はい。わかりました。各地域の掲載について漏れのないように十分に留意します。また、ボランティアの募集についても、公民館の歴史サークルの会員の方に声を掛けるなどこれまで行っていますが、更に強化してまいります。
- 橘田委員長 それでは、各班の項目のグルーピングについて協議が終わりました。各班に今一度持ち帰っていただき、検討をお願いします。また、関連する項目、時代区分の微妙なところについては、班との合同会議も必要となってまいりますので、よろしくをお願いします。それでは、次の「体裁及び執筆要項について」に移ります。事務局から説明願います。
- 事務局（戸倉副主幹） （事務局より体裁についての説明）
- 橘田委員長 事務局より体裁についての説明がありました。何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。
- 永野委員 このサンプルのものは、文字がちょっと少ないですが、このサンプルの文字数に統一するわけではないですよ。この文字と図表の割合は、書く内容や写真の有無なども関係してくるので、ある程度執筆者に任せるのですよね。
- 事務局（能城課長） はい。図表がどのくらいのスペースになるか、写真の掲載の仕方によって文字数が変



わってきますので、図表のレイアウトや文字数については、執筆者にお任せします。ただ文字数はやはり、原稿用紙3枚前後、1,200文字くらいにしてもらいたいと思います。

金子委員　　そうですね。文章が多いと読み難くなりますから、簡潔明快な文章を心掛けることが一番大切なことです。最初の粗原稿は、書きたいことをまず書く。そして、次にその原稿を簡潔明快な文章にスリム化するという校正作業が、執筆者にとって一番大変かもしれません。

橘田委員長　　それでは、ご意見ないようですので、本の体裁については、A4版縦書き 20文字×20行の3段組みとします。また、執筆要項については、金子委員からの提案を基に新年度第1回目の市史編集委員会にて事務局の方から提案があるとのことですので、改めて執筆要項についてご協議願います。次に「議題3 次年度計画について」に移ります。事務局より説明願います。

事務局（石川主査）　　（事務局石川主査より次年度計画についての説明）

橘田委員長　　事務局より次年度計画についての説明がありました。何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

橘田委員長　　ご質問ないようであれば、本日の協議事項は、以上で終わりでございます。最後に、事務局の方から報告事項があるようですので、報告をお願いします。

事務局（石川主査）　　（市史編集事業ボランティアについて報告）

橘田委員長　　事務局より市史編集事業ボランティアの現状報告がありました。何かご質問、ご不明な点等ありましたらお願いします。

橘田委員長　　ご質問等ないようですので、進行を事務局にお返しします。

事務局（半澤主幹）　　長時間に渡るご協議ありがとうございました。以上で第4回市史編集委員会のすべてを終了いたします。お疲れさまでした。

平成22年3月18日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄